

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

マラソン大会あれこれ-----  
御成街道-----

桐生 矩夫  
岡部 成一

夜泣き石-----  
子供の笑顔-----

宮本 定雄  
新田 貴代士

## 「そば打ち迷人」

坂本 初男

第二の人生でそば打ちを始めたという人はけっこう多いのではないだろうか。

私のそば打ち師匠の話によると、「第二の人生でやりたいことの両横綱は陶芸とそば打ち」だそうです。

師匠がそば打ちを選択した理由は「陶芸はいろいろなものが残るが、そば打ちは殆ど何も残らない。そば打ちは1時間足らずの単純作業だが、毎回確かな感動が残る」からだそうです。

私がそば打ちを始めたのは昨年6月で、そのきっかけは市民カレッジ2年生に与えられる「まちづくり」という課題に取り組むためでした。

「まちづくり」は佐倉市の観光や福祉、環境に貢献することを目的とした活動で、少なくとも卒業までは活動を継続していくことになっていま

す。卒業後も継続している活動は数多くあります。

私達のグループは佐倉市のB級グルメを創作し、歴史と文化を誇る城下町佐倉市を観光客で賑わう町にしたいとの思いで集まりました。

活動方針の検討を重ねた結果、長期目標は「そばを素材としたB級グルメの創作」、当面目標は「そば打ちを佐倉市民に広め、そばを好きになつてもらおう」と決まりました。

グループ名は「そば打ち迷人」としました。8名のメンバーで、うち2名は名人で、ほかの6名は迷人です。

まずは自分達の技術向上を図ることが重要と考え、月2回のペースでそば打ちを実践することにしました。

最初にそば打ちをした時の感動は今でも忘れることができません。そば粉は師匠が北

海道の幌加内から取り寄せ、つなぎ粉2対そば粉8の二八そばを打ちました。最初から最後まで師匠に教わりながらの作業でしたが、一連の作業が終了した時は、適度な労働のためか、達成感のためか、何とも言えない快感を覚えることができました。その後、打ったそばを茹でて、皆で食べたそばの美味しさは格別なものでした。

早速、そば打ちセットを揃え、家でも何度か練習を重ねた。昨年の暮れには年越しそばを打ってみました。出来栄は必ずしも満足のいくものではありませんでしたが、妻や娘達、孫達から「こんな美味しいそばは食べたことがない」と褒められ、気分良く新年を迎えることができました。

これからも、より多くの方々にそば打ちの楽しさとそばの美味しさを知ってもらおう活動を継続しつつ、長期目標であるB級グルメの創作にも挑戦していきたいと思っています。

(編集委員)

## マラソン大会あれこれ

最近ではマラソン大会ブームであり、年々参加者が増えています。参加するには申し込みが必要ですが走るより申し込みに苦労するのです。インターネット申し込みによって直ぐ定員になってしまつたためであり、人気大会は数時間から半日で定員に達してしまいます。多くの大会は先着順で東京マラソンなど抽選は少数です。自分の予想タイムも記入するので早いタイム順にゼッケンが決定する大会が多くなっています。

無事申し込みができたなら、参加案内の通知書が届き、会場に行き走ることになります。受付でゼッケン等を受け取りさあ、走る準備に係かります。自分の記録タイムを測定するチップ等はゼッケンについている物や靴に付ける両方があります。

スタートでの並ぶ順も大会

によつて違います。タイム順になつている所や自分が早いと思う人は前と、遅い人がいると接触し転倒する恐れがあるためです。面白い大会は谷川真理ハーフマラソンで、荒川の河川敷の開催と1万人以上の参加者のためスタートは一緒にでも半分は上流に、半分は下流へと向かつて走ります。それも3回に分けて行ないます。又青梅マラソンはスタート地点のガードレールには布団が巻いてあります。走り始めると楽しみは途中の給水等です。水はもちろん富里ではスイカがあります。フルマラソンはパンやバナナは定番で荒川マラソンはアイスクリームもあります。さあ完走しました。多くの大会ではその場で記録証が発行されます。皆さんも距離の短いコースもありますので、雰囲気味わつてはいかがですか。

(西志津 桐生 矩夫)

## 夜泣き石

静岡県掛川市の旧東海道筋に「小夜の中山夜泣き石」と云う伝説がある。

その昔、小夜の中山に住むお石と云う女が、菊川の里へ働きに行つての帰り道、中山の丸石の松の根元で腹痛を起こし、苦しんでいる所へ、轟業右衛門という侍が通りかかり介抱していたが、お石の懐

がしているので聞いてみたところ、「去る十数年前小夜の中山の丸石の付近で、妊婦を切り捨てた時に傍の石にあつたのだ」と云つたので、母の仇とわかり名乗り、恨みを見事に晴らすことができた。

その後、弘法大師がこの話を聞き、お石に同情して丸石に仏号を刻み、立ち去つたと云う。

に大金があるのを知り、殺して金をそっくり奪つて逃げた。その時お石は懐妊していたので、傷口より子供が生まれ、お石の靈魂が傍らの丸石にのりうつり、その後夜毎に泣いたと伝えられ、里人は怖れて、誰云うとなくその石を「夜泣き石」と云つた。

この久延寺にその「夜泣き石」が祀られて、当時の掛川城主だつた山内一豊が、徳川家康をもてなした寺としても有名で、境内には家康お手植えと云われている五葉松があり、秋には毎年観月会が催される。

傷口から生まれた子供は、音八と名付けられ、久延寺の和尚に飴で育てられ、立派な若者に成長し、大和の国の刃物研師の弟子となつた。

たまたまそこへ轟業右衛門が刃研ぎに来た折、刃こぼれ

久延寺の隣にある扇屋は、江戸時代から続く由緒ある店で、「夜泣き石」に因んだ「子育て飴」が売られている。

(千成 宮本 定雄)



が刃研ぎに来た折、刃こぼれ

## 御成街道

慶長一八年(一六一三)、徳川家康は東金鷹狩りのため、佐倉城主土井利勝に命じ、船橋から東金に通じる全長三七<sup>キロ</sup>、道幅三間の道路を造成させた。沿道付近の九十七ヶ村の農民を総動員して完成したこの道は、一般に御成街道、別名権現道、一夜街道、提灯街道とも呼ばれる。今回は、八街、東金エリアに分けて巡ってみよう。

「八街エリア」  
船橋御殿より四ヶ目提灯塚(二里塚跡) 旧金親村、石井家長屋門(高札場) お茶屋御殿跡(土井利勝が佐倉城築城に用いた資材や大工人足を動員して建築、現在は金光院山門に同御殿の裏門が、宝泉寺山門に表門が移築) 椎の古木(二里塚、池田氏宅) 古道(木の伐採が進み心配。小川氏宅の道路も古道)  
「東金エリア」

道祖神 おあし坂(急坂古道、下り切った谷津田前方の一里塚跡に一本松) 魂霊坂(家康に敗れた戦死者の埋葬地) 日吉神社(利勝再興神社、家康、秀忠も参拝。樹齢四百年以上の杉の木多数) 山王坂(日吉神社から続く坂) 八鶴湖 東金御殿(利勝が地元の代官に命じて造営。現在の東金高校、正門付近は裏門跡) ところで、將軍の鷹狩りは埼玉を中心に行われたことが多く、東金では家康が二回、秀忠は八十二回、家光も大納言時代一回行っている。その後、寛永七年(一六三〇)に鷹狩りは中断、御成街道は軍需道路、庶民の生活道路として使用された。

明治に入って陸軍志津演習場開設や旧鍋島藩の八街開墾などで御成街道は寸断され廃れてしまったが、往時の面影を処々に残す歴史街道のひとつであることに変わりはない。ぜひ散策を。

(中志津 岡部 成一)

## 子供の笑顔

ひよんな事から一昨年の八月に佐倉国際交流基金より、南米から来日した家族の小学一年の児童について、日本語

適応の支援をしてもらえないかとの話があった。務まるかどうかとにかく会って見た上でお受けしましょうと、答えたがそのまま月3回程度、午前中その子供の隣に座って学習を支援することになった。

この歳になつて随分変わった。この歳に漢字の書き順や送り仮名を勉強することになるとは思わなかった。それに子供達の自主性、奇抜な発想に驚かされたりもした。何よりも「子供はすばらしい。次代を背負って行く宝である」と再認識したことである。

朝、教室に入り「おはようございます」と挨拶すると、一斉に「おはようございませす」と、弾けるような声と底抜けに明るい笑顔が私を迎え

てくれる。心の邪念がすべて洗い流されるような瞬間である。この子供達の笑顔は、神が一樣に与えてくれた最高の贈物で大人を引きつけて止まないと常に思う。

一年半程子供達と接していると、いろいろな事を教えてくれる。中でも、「優しさ、友達を思う心」である。ある時、支援している一年生が、登校直後、連絡帳を忘れたと泣き出した。そばにいた子が「大丈夫よ、自由帳を使えば良いのだから」となだめた。驚いた。思わず「エライ」とほめてあげた。

二年の学習で好きな漢字として挙げられたのは、友、心、思、楽等、友を意識した漢字が多かった。先生方の教育指導の成果の表れであろう。子供達から、逆に、いやしとパワーをもらって過ごしている今日この頃である。

(宮前 新田 貴代士)

## 6月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただきます。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市錦木町198-3

### さくら道

我が家の庭先に並ぶ何十もの鉢。爛漫の春から続く賑々しさである。そのほとんどは寄せ植え。私は多少のこだわりを持って寄せ植えを作る。まずは組み合わせる植物の性質を知る。湿度や日光の好悪、上に伸びるか広がるか、垂れるか這うかなど。鉢の置き方にも気を配る。高低差のあるスタンドで庭に立体感を出す。個々の寄せ植えが引き立つように、そして全体のバラ

ンスを見て調和を図る。思い先行、実現難航の繰り返しだ。

物言つ人間は殊更難しい。しかし、家族や友人との絆を深めよう。個性を知り尊重し合いながら。

季節の移ろいを感じて寄せ植えを楽しみたい。他とのかわりも大事にしたい。さあ、夏が来る。

（松山 洋子）

### あとがき

市民カレッジの前身「長寿大学」の学生有志の手で創刊されて以来36年、当紙は一度も休むことなく発行されてきました。創刊の翌年から公民館事業に引き継がれたことが大きいとはいえ、移り変わりの激しいこの時代、これは特筆に値することなのでしょう。

『なかま』の発行は、市民カレッジ生16名とOB数名の委員による編集・校正、カレ

ッジ情報コースOBによる原稿入力、そして中央公民館職員による印刷・配布という順に分業で行っています。

今月号は、趣味、伝説、歴史、人の成長といったバラエティに富んだテーマが並びました。何と言っても『なかま』は皆様の投稿によって成り立っています。あなたの心に感じたこと、あなたの心を動かしたこと、それをことばにしてみませんか。

（巴 安治）